注目! シリーズ

GAPで変わった我が経営

GAPは組合員の意識統一の指標～農事組合法人 うちがまき絆の取組～

小千谷市のうちがまき絆は、平成22年に設立した農事組合法人です。組合員19名で、水稲、トマト等を栽培しており、平成24年にＪＧＡＰ認証を取得しています。

代表の佐藤正さんは振興局の研修会をきっかけに軽い気持ちで取得に取り組みましたが、ＧＡＰの考え方を組合員一人一人に分かってもらうのはとても大変で、特にたまに手伝いに来る組合員に理解してもらうにはとても苦労したといいます。

しかし農場を整理整頓し、ものの置き場を決めることで探し物の時間がなくなったり、作業のたびに機械の点検作業を行うことにより、田んぼに行ってから機械の故障に気づく等ということがなくなるなど、結果的に作業の効率化につながっています。

農作業日誌を手に話す横山さん

事務所に掲示されているほ場管理図

整理された帳簿類

ここ１～２年はＪＧＡＰ認証農場ということで、取引先から選んでもらえることが多くなり、販売の拡大にも結びついています。

それとともに、役員だけでなく組合員の皆さんもＪＧＡＰ認証農場としての自覚が高まり、それぞれ自己管理ができるようになり、組織としての規律の維持に役立っています。

また、ＪＧＡＰ認証取得後に法人のメンバーとなった横山さんは「過去の書類が残っていることで情報共有ができ、新しく入る人はとても役立つ仕組み。ＧＡＰは農場の人たちの考え方を同じ方向に向ける指標だと思っています」と話しておられました。

今年は今まで玄米だけだった認証を野菜にも広げ、ステップアップできればと考えています。

ＪＧＡＰを活かしたさらなる経営発展が期待されます。

【長岡農業普及指導センター　歌代　摩可子】